

「母とぼくが育った『練馬区』」

豊玉東小学校五年 谷本 光

祖父母が住み、母も育った練馬区にぼくは小さいころ引っこして来ました。他の区に比べて、緑も多く畑もあり自然がたくさんある所だと思いました。

そして、ぼくには忘れられない思い出があります。それは、一年生になったばかりのころ自転車を乗る練習をしていた時の事です。上手く乗れずに何回も転んでいた様子を見ていた近所のおじいさんと、八百屋さんのおじさんがかけつけて自転車の乗り方を教えてくれました。おじいさんはハンドルを持ち、八百屋のおじさんは後ろから押してくれました。何度も何度も三人で汗をかきながら練習しました。そのおかげでぼくは自転車が乗れるよ

うになつたのです。おじいさんはその様子を写真にとり、祖母の家に持って来てくれました。その写真は、ぼくの大切な宝物です。

また、ぼくが歩いていると、

「車に気をつけて。」

「今日は暑いね。」

などと商店街の人や近所の人が声をかけてくれます。ぼくは、みんなに見守られながら生活しているのだと感じます。

ぼくたちが大人になつた時はこの練馬区はどうなっているのか心配です。少子化、環境問題とたくさんの問題をかかえているからです。子供たちも大人たちと協力し、未来の練馬区を考えていく必要があると思います。まずは、ぼく達にもできるゴミ問題やCO₂削減に取り組んでいきたいと思います。今は、小さな一歩かもしれませんが、やがて大きな一歩になるために自分達のできることを考えて実行に移したいと思います。また、地域との交流を深め、ぼくのような素敵な思い出を一人

でも多くの子供が持てる『練馬区』になるよ
うに頑張っていきたいです。